

関西広域産業共創プラットフォーム News Letter

2024(令和6)年
3月末発行

● 兵庫県立工業技術センターで見学会・交流会を開催しました ～関西広域連合域内の公設試と関係機関との連携を進めています～

関西広域産業共創プラットフォーム（以下、「広域PF」という。）では、関西広域連合域内の10の公設試・連携機関との連携の促進、また、域内公設試の若手職員を中心に知見を深めていただくことを目的として、公設試の見学会と交流会を開催しています。今年度2回目の見学会・交流会として、2月14日に兵庫県立工業技術センターで開催しました。

兵庫県では、瀬戸内海沿岸に集積した全国有数の金属素材製造・加工企業が「ひょうごメタルベルト」を形成しており、これら産業の高付加価値化を図ることを目的として、新素材の研究開発を行う拠点である『金属新素材研究センター』を整備していることなどの紹介を受けました。また、砂型3Dプリンタ（砂型積層造形装置）などの特徴ある設備機器を見学しながら、参加者と担当研究員との意見交換を行いました。

さらに、（公財）ひょうご産業活性化センター、（公財）新産業創造研究機構、一財）近畿高エネルギー加工技術研究所などの、企業支援の志を同じくする関係機関の方と交流し、企業支援のあるべき姿などについて意見を交わしました。関西一円から47名の参加者が一堂に会し、盛会のうちに終わることができました。

広域PFは、来年度も、このような公設試と関係機関が密に連携した域内企業の支援の取組をさらに進めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



閉会前に参加者みんなで「はい、チーズ！」

～事務局便り～

桜の季節になりました。春休みにも入り、新幹線などでは大きなキャリーバックを持った国内外の旅行者で大賑わいです。いわゆるインバウンド効果の大きさを実感できます。この時期はまた、多くの社会人にとって異動の季節でもあります。当PFの事務局におきましても、メンバーの一部交代が想定されます。継続メンバーの頑張りと関係者の皆様のご支援を得ながら、人員交代の影響を最小限に抑えて、事業の継続・発展に尽力してまいります。

さて、私ども広域PFはこの3月末で2事業年度を終えます。今年度の広域PF利用件数は100件を超え、当初掲げた目標値を達成いたしました。もう1つの目標値であるHP閲覧数2万3千件の方についても、ほぼ同程度の結果で達成できる見込みです。

次年度に向け、大きな飛躍の年になったと確信します。PF事業を支えて頂いている公設試の皆様、CD会議メンバー、また全国のアドバイザーの方々のご尽力、ご支援に深く感謝いたします。

今後も引き続き、事務局一同、力を合わせてさらなる発展に注力してまいります。

●フーリエ変換赤外分光光度計が 新しくなりました (京都府中小企業技術センター)



令和5年度公益財団法人JKA補助事業
(競輪補助物件)で導入(※過去の表記と統一)

フーリエ変換赤外分光光度計は有機物など化合物の同定や官能基などの原子団の有無、分子の結合状態を調べるもので、指示した物質で構成されたものであるかどうかの確認、製品の混入異物の同定、製品の付着物の同定等に利用されています。

新しく導入した装置は、全真空システムを搭載しており、水蒸気や炭酸ガスによる影響のない高感度測定が可能です。

品質検査や研究開発等に是非ご活用ください。

※詳しくは以下ホームページをご覧ください。
<https://www.kptc.jp/jouhou/fourier/>

●バーチャル修了作品展(陶磁器・漆工 コース) 令和5年度伝統産業技術後継者育成研修 (地独)京都市産業技術研究所

京都の伝統産業である「西陣織」「京友禅」「京焼・清水焼」「京漆器」といった分野において、京都の将来を担う技術者を育成する「伝統産業技術後継者育成研修」の修了生による作品展を先日開催しました。その様子をwebで「バーチャル修了作品展」としてお届けしておりますので、下記のURLよりぜひご覧ください。

>> バーチャル修了作品展: <https://tc-kyoto.or.jp/info/post-14897/>



京都市産技研では、伝統産業分野におけるSNSやWEBを活用した効果的なPR手法の研究を行っています。「バーチャル修了作品展」はスマートフォンで手軽にバーチャル空間が作成できるサービス(Matterport社提供)で作成しました。

セミナーや技術指導を通じて地域企業の皆様へ情報提供を行って参ります。

>> 活用事例: <https://tc-kyoto.or.jp/case/case-595/>

●センター職員が表彰されました ~2023年度中国地域公設試験研究機関功績 者表彰~

(鳥取県産業技術センター)

令和5年11月28日に開催された中国地域公設試験研究機関功績者表彰(主催:公益財団法人中国地域創造研究センター)において、当センター職員の塚根 亮が、今後の活躍が期待される若手研究員に贈られる「研究奨励賞」を受賞しました。

塚根研究員は、CO₂排出量削減などの社会課題の解決を目指して、金属材料の塑性加工の高度化、軽金属の材質制御技術開発に取り組んでいます。塑性加工分野では鳥取県内企業と共同研究を実施するなど低コスト量産技術開発に取り組み、また、材質制御分野では衝撃吸収材への適用を目指したポーラスマグネシウムの開発等を行うなど、企業への技術移転を目指しています。



※詳しくはこちらをご覧ください。

<https://tiit.or.jp/info/topics/u151/>

●ハッサクプロジェクト(産官学連携プロジェクト) のご紹介 (和歌山県立工業技術センター)

東洋大学によりハッサク果皮に含まれる成分であるオーラプテンが熱中症対策に効果的である可能性が世界で初めて発見され、特許を取得しています。

その特許をシーズとして、和歌山県工業技術センター、紀の川市、紀陽銀行、東洋大学、と複数の事業者とともに、産官学連携プロジェクトである、「ハッサクプロジェクト」に取り組んでいます。

このたび、その取組をPRするためのプロモーションビデオがハッサクプロジェクトYouTubeチャンネルで公開されましたので、是非ご覧ください。

<https://www.wakayama-kg.jp/news/2024/03/youtube.html>



ハッサクの成分を利用した熱中症対策を研究 ハッサクプロジェクト

<https://hassaku-pj.jp/>